重点戦略３ 「呼び込み・拓く」成果と課題

１ 目 的

新しい人の流れの創出による農村地域の活性化と安全・安心で住みよい農村づくりを進めます。

２ 実 績

- ◆ 農産物直売所及び農村レストランの販売額　R7：230 億円　[目標値：180、基準年度：175（R1）]
- ◆ 農村ファン（農村における関係人口）創出人数　R7：1,562 人　[目標値：645、基準年度：―（R1）]
- ◆ 農村地域の雨水流出抑制対策実施流域数　R7：３件　[目標値：３、基準年度：―（R2）]
- ◆ 防災重点農業用ため池における防災対策を講じた施設の割合　R7：77%　[目標値：100、基準年度：―（R2）]



インバウンド受入に向けた農家民宿の整備

３ これまでの主な取組及び成果

（１）新しい人の流れの創出による農村地域の活性化

○ 「とちぎの農村めぐり」や、農村地域と都市住民の交流サイト「TUNAGU」を活用した情報発信の強化により、農村への繰り返しの来訪者や、地域の共同活動に参加する農村ファンが増加した。（農村ファン創出人数　R7：1,562人）

○ 「農ある暮らし推進協議会」の設立（R5）により、移住促進に向けた連携体制が整備されるとともに、独自で農ある暮らしの推進に取り組む市町や地域が出てきた。

○ 農村地域の稼ぐ力の強化に向け、農村プロデューサーを設置（R6）するとともに、インバウンド需要等の取り込みを図る「とちぎの農村グローバルビジネス推進方針」を策定（R6）した。３地域でグローバルビジネス創出計画が策定（R7）され、インバウンド受入れに向けた環境整備等の取組が開始された。



農村ファン交流会

（２）安全安心な栃木の農村づくり

○ 思川流域をはじめ３流域で雨水流出抑制対策の基本指針を策定し、市町へのキャラバンや流域協議会での研修会の実施により、関係者の対策意識の醸成が図られた。

○ 農業用ため池の維持・補強に向けた防災対策の推進等により、農村地域の防災力が強化された。
（対策が必要な防災重点農業用ため池 177 か所のうち、137 か所の防災対策を実施）



農業用ため池対策研修会

４ 主な課題（対応の方向性）

○ 農村地域の資源を活用した新たなビジネス創出に向けた多様な人材の参画

○ 地域の受入体制整備や農村ファンと地域がつながる機会の創出

○ 地域を支える人材の確保・育成と協働活動の促進

○ 田んぼダム等の取組拡大に向けた流域のあらゆる関係者の理解促進

○ 水利施設の機能診断の実施等による農業・農村インフラの保持



役割を終えたため池の廃止工事
（決壊リスク回避による防災力の強化）